

BITUNG(MANDO)を訪ねて

大阪府 清水教博

マッカサルでの慰霊祭に参加、2013年6月23日にMANADO (BITUNG) に移動。
日本出発前に日本スラウエシ会事務局の脇田様に在BITUNGの長崎様（北スラウエシ日本人会事務局）を紹介頂き、滞在中お世話になりました。有難うございました。

6月24日：

早朝、ホテルでピックアップして頂き(お昼近くなると暑くなるのでとのお心遣い)、
先ずミネボンネの慰霊碑へ。私の恩師・縁者と元企業の上司のふたりが第14期海軍
飛行予備学生、帰国後代理お参りの報告。合掌。
建立された皆さんの同期の戦友に対する思いやり、また長崎様の行き届いた管理・お世話
に改めて感謝です。

海上自衛隊の遠洋練習艦の慰霊訪問の時は港が浅いので沖からカッターで上陸、見事な光
景この地に立っていると目に浮かぶようです。

今年11月には日本から建立された大之木様と呉水交会の方々が5年に一度の慰霊祭の予
定をお息しました。

11月08日に呉水交会の方々の立派な慰霊祭の記事がインターネットで見ました。

その後、BITUNGの日本人墓地を参拝。

在留の方が散らばっている墓を一か所に集められた記事は日本スラウエシ島マガジンで読
んだが、旧日本軍軍人・民間日本人と一緒に祀られており、改めてこの墓地で日本人の
MANADOへの歴史を見ることが出来ました。

(「風の墓標」平岩弓枝著—新潮文庫を読むと 17世紀ごろから日本人はこの地域で活躍)

堀内豊秋海軍中佐 — 「靈魂」碑がMANADOにあると堀内落下傘部隊の活躍記を読ん
だことありお参りを予定していたが、一般墓地の中にあり墓地が草ぼうぼうで荒れており、
また浮浪者がおり、日本人とみると金品のたかりに来るとの事、残念ながら避けました。

帰りにBITUNG漁港内の大貫様のマグロ加工場を見学、日本向け解体マグロの輸出をされ
ており工場内は清潔、しかも従業員が活発に動いており、インドネシア人も指導で日本人
に劣らぬ活躍に感心しました。

6月25日：

午前中運動不足気味であり、徒歩でBITUNG港に行く。客船乗り場ではハルマヘラ・モロ
タイ行のフェリーがシュコウ準備中。乗船客の手荷物に生野菜(ネギ・キャベツ等)が
あり。帰りにスーパーで飲料水・パン・果物等をハルマヘラへ購入。

長崎様の心配りに改めて深謝。BITUNG滞在中で大変お世話になり、またの再会を約束し
ました。有難うございました。

午後、チャータータクシーでMANADOに移動。雨に会いまた道路が混んで予定より遅
れてMANADOホテルに到着。

長崎様にご紹介頂いた旅行社 PT SAKURA MINORU で翌日のテルナテ（ハルマヘラ）行の航空券を購入。 17時過ぎていたが気持ちよく直ぐに発券手配。 有難うございました。

6月26日：

MANADO 発 09:30am GARUDAAIR でテルナテ行、雨で出発 30分遅れ。

処がハルマヘラ島上空を約30分旋回、天候不良化日機内は大揺れ[上下左右]弔客の中にイスラムのお祈りを始めた。結局記帳のアナウンスでテルナテ着陸出来ないのでMANADO に引き返し。

約一時間後に再度搭乗、テルナテへ出発。 併し、先程は満席、再出発便の機内は旅行止めたのか？空席が目立った。揺れたが雨の中着陸。

翌日、テルナテは雨と強い風が吹いており、海は荒れていた。 ハルマヘラに船（小型船）で渡るべく船乗り場で聞き、様子を見ていたが天候の回復の見込みなく、今回中止。

6月29日：

バリに引き返すことにした。断食、学校休みで家族での移動が多く、飛行機殆ど満席。飛行機乗継、14時間かかりバリに到着。

モロタイ島はマッカーサー司令官がここより、バリックパパン、フィリッピン、沖縄攻撃の基地とし、またこの海岸をこよなく愛したと GARUDA AIR の機内誌で読む。激しい戦闘の場所の一つで出来るだけ早く慰霊に行きたいところの一つ。

今回の訪問は中途半端になりました。

以上、

報告先：

北スラウェシ日本人会 事務局

日本スラウェシ会 事務局

修正—1 2013.12.02